



面倒なことは大切？

～日々の中で面倒なこととうまくつきあうと～



大人も子どもも・・・日々面倒くさいという気持ちと向かい合っています。誰しも放っておくと楽な方へ、先延ばしの方へと流れてしまいます。

そうして「まあいいか」とやめになります。(この弱さも時にありだし、大切だとは思いますが・・・)

子どもであれば、脱いだ靴の始末に始まり、宿題、日課揃えなど、大人であれば、日々のやらなくてはならない雑用、メールやお世話になった方への返信や挨拶、今年こそはと決めた勉強やダイエットなども面倒であり、楽な方へと流れる代表のような決め事でしょうか。そのような面倒さは日々の日常生活や仕事、人間関係など、生活全ての中にありそうです。

ただ、この面倒なことをきちんとすることは、自分のためのことであろうと、人のためのことであろうと、かけた手間以上のものが自分へ還って来るように思います。

面倒なこととうまく付き合える人は、生活が整います。豊かになってきます。先を見通して、先のことを考えながら生活できるようになってきます。

逆に「面倒なこと」を放っておくと、必ず後で大きなツケとなって還ってきます。はきものを脱ぎっぱなし、日課そろえを忘れがち、部屋の片付けができない。他人へのお礼が面倒！謝罪は気が進まず遅れてしまう。時間や決まりごとが守れない。怖いのは習慣となり人格となることです。特に人間関係では、ささいなことでも、信頼を失ってしまいます。

今の私たちの社会や生活は便利なことがずっと普通である状況が続いています。意識をしておかないと、面倒という言葉でかたをつけたり、やらなくてよい理由を自分でつくったりと、自分本位で、その時のことだけを考える短絡的な考え方や言動が、次第に普通になってきます。

以前『親から子への最大のプレゼントは「がまん3点セット」です』というお話しをしました。我慢はもともと、今の欲求満足先延ばしにする能力であり、先の目標のために努力する能力です。今のコンビニ（便利・効率的・ハイサービス提供・・・）社会にずっと浸かっている私たちに大切な能力！「面倒なこととうまくつきあう力」を、まずは自分から、そして子どもたちにもつけてやりたいなと思います。2学期が始まります。面倒なことに少し時間をかけてみようと思います。

校長 藤永靖彦

常盤まるごと学びレッジ！第1弾！

学校内や学校周辺の道端にこんなプレートがあります。⇒

常盤小コミュニティスクールで企画し、保護者の方、地域の方と共に

進めています。100mを例にすると机上で勉強した100mを現場で実感し、

地図や航空写真で眺めることで子どもたちの学びを深めたいという願いがもとになっています。

(第1弾として、今、様々な距離や高さ、角度、面積などの表示を進めています)

